

PRESS RELEASE (2022/8/19)

## 特定外来生物「ツマアカスズメバチ」の働き蜂と営巣を福岡県内で確認

### 発表のポイント

- ① 「ツマアカスズメバチ」は、日本本土への定着を阻止しなければいけない危険な外来種として特定外来生物に指定されています。
- ② 「ツマアカスズメバチ」の働き蜂を福岡県内の久山町と篠栗町の計6カ所で50匹以上発見すると同時に、「ツマアカスズメバチ」の巣が2ないしは3個存在することを確認しました。
- ③ このままでは、九州本土への定着が確実なものになるため、速やかに「ツマアカスズメバチ」の巣の駆除・撲滅を実施する必要があります。本調査結果は、駆除・撲滅を効果的に進めていく上で重要な情報を提供し、「ツマアカスズメバチ」の日本への定着阻止に貢献する成果となります。

### 概要

九州大学大学院農学研究院生物的防除研究施設の上野高敏准教授は、特定外来生物に指定されている「ツマアカスズメバチ」に関する調査を行ってきました。

今回、福岡県内の久山町と篠栗町の計6カ所において、「ツマアカスズメバチ」の働き蜂を、延べ50匹以上、確認しました。この調査結果は、外来スズメバチが福岡に完全定着する一歩手前の段階にあり、早急な対応が必要であることを意味します。定着阻止のために重要なことは、発見した働き蜂の個体数ではなく、巣の数とその営巣場所を特定することです。そこで、さらに営巣場所を特定する調査も実施しました。その結果、「ツマアカスズメバチ」の巣の数は、2ないしは3個存在することを推定しました。

巣の駆除が、定着阻止のカギとなりますので、今後は営巣場所の特定を進めていきます。また、関連する行政機関とも連携し、ツマアカスズメバチを根絶すべく行動していきます。



(1) 久山町の養蜂場で確認された「ツマアカスズメバチ」。



(2) 篠栗町で誘引剤に飛来した個体。調査では複数の手段を用いてツマアカスズメバチの探索を行っており、画像の個体はスズメバチ類が好む誘引剤を用いた調査において確認したもの。



(3) セイヨウミツバチを捕獲したツマアカスズメバチ。「ツマアカスズメバチ」は捕食者として様々な獲物を狩るが、特にミツバチ類を好みのターゲットとする。

## 【研究の背景と経緯】

「ツマアカスズメバチ」は、人への刺傷被害を引き起こし、生態系と養蜂への悪影響を及ぼす懸念から、特定外来生物に指定されています。中国南部原産のスズメバチですが、2000年代初頭に朝鮮半島とヨーロッパに侵入・定着し、外来種として問題となっています。日本国内においては、2013年に長崎県の対馬で確認され、その後、完全定着しています。同島では対馬市と環境省が中心となり本種の駆除事業を展開していますが根絶には至っていません。また対馬への侵入・定着に続き、北九州市、宮崎県日南市、長崎県壱岐、大分市、山口県防府市でも発見されましたが、いずれも巣が駆除され、かろうじて本土への定着は未然に防止されていました。

ところが、本年の4月と5月に、福岡市と久山町で本種の女王蜂が相次いで発見されたため、九州北部地方への侵入が確実となり、その定着が危惧されています。環境省が行った調査では、その後、オス個体が1匹のみが確認されただけで、本種が九州北部に定着しつつあるのか不明でした。しかし発見漏れがあると来年以降、本種の定着が確実になる恐れがあるため、徹底的な探索調査が求められていました。

## 【研究の内容と成果】

上野准教授は、本年の5月以降、福岡県下におけるツマアカスズメバチの定着状況に関する調査を継続して行ってきましたが、久山町と篠栗町の計6カ所においてツマアカスズメバチの働き蜂を、延べ40匹以上、確認しました。確認した時期は、8月上旬から中旬にかけてです（現在も調査は継続中）。

本種を確認した地点は、養蜂業を営む方のセイヨウミツバチ飼育箱に飛来した事例が2カ所（いずれも久山町内）、残り4カ所（久山町3カ所、篠栗町1カ所）では山林内における発見事例、となります。発見したツマアカスズメバチの延べ数は50匹以上（同一カ所に繰り返し飛来した個体を含む）ですが、これはあくまでも働き蜂の数であって、重要なのは巣の数となります。

そこで、ツマアカスズメバチの確認調査を継続しながら、発見個体や捕獲個体の追尾も行い、営巣場所の推定を行ったところ、確認されたツマアカスズメバチ個体が由来する巣の数は2ないしは3個と判断しました。したがって、ツマアカスズメバチは福岡県下に定着する一歩手前の段階にあることが確実となりました。

## 【今後の展開】

ツマアカスズメバチの巣を発見し徹底的に駆除していかなければ、数年内に九州北部の広い地域へと一気に本種が拡散していく恐れがあります。また、九州本土への定着後は本州への分布拡大へと続いていくでしょう。急ぎ、次世代の新女王が巣から放出される時期（11月以降）が来る前に巣を見つけ出し駆除する必要があります。また、県内におけるツマアカスズメバチの分布調査を継続し、他にも巣が存在するか確認しなければなりません。この夏から秋が、本種の定着を許してしまうかどうかのターニングポイントになるのです。

本種の定着阻止に向け、調査活動を継続していく所存です。ツマアカスズメバチに関する生態、行動、分布に関する基礎研究を進めると同時に、環境省九州地方環境事務所ならびに県内自治体に協力を要請し、県内の分布状況調査と巣の駆除作業を実施していく予定です。

【お問合せ先】

九州大学 農学研究院 准教授 上野高敏（ウエノタカトシ）

TEL：092-802-4579

Mail：ueno@grt.kyushu-u.ac.jp

参照サイト：<http://www.agr.kyushu-u.ac.jp/lab/ine/ueno/index.html>

上野准教授によるツマアカスズメバチを含むスズメバチ類に関する情報を掲載  
データ提供：報道向けの画像および動画を希望する方はメールにてご連絡ください。